

平成26年度学校自己評価システムシート（さいたま市立浦和南高等学校）

目指す学校像	南高生の誇り10箇条を座右の銘とし、人格の完成を目指し、豊かな情操を養い、探求心旺盛な自主自立の精神に満ちた心身共に健康な民主的 社会人の育成を期する。
重点目標	1 主体的に学習できる生徒の育成と進路実績の一層の向上を図る。 2 活力と特色ある教育活動を推進する。 3 地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価（1月22日現在）			実施日	平成27年	1月29日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		
1	平成25年度から進学重視型単位制高校に移行した。生徒の進路希望実現のため、学習意欲の向上と大学受験に向けた早期からの取り組みを進めている。昨年度の生徒アンケートによれば「教え方が工夫されていて授業が分かりやすい」と答えた生徒の割合は49.2%であり、更に授業改善を進める必要がある。また、国公立大学への合格者数は倍増したが、現役での進学率は若干減少した。より一層の進路希望実現を図る必要がある。	授業改善の推進による確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> より良い教育課程の編成に向けた研究と検討 生徒アンケートを活用したニーズの把握と改善策の策定 「教えて考えさせる授業」研究事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数授業の展開に必要な学習環境を計画的に整備する。 「授業がわかりやすい」と感じる生徒の比率が2/3を超える。 「教えて考えさせる授業」への取り組みを全職員で共有する。 	<p>確かな学力の育成について、概ね達成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数授業のための設備について、選択D教室等、限られた場所と予算の中、確保に努めた。 「教え方が工夫されていて授業がわかりやすい」と答えた生徒の割合は51.7%であった。 「教えて考えさせる授業」に関する公開授業・研究協議を2回実施した（2回計103名参加）。 	B	<p>「授業がわかりやすい」と感じる生徒の比率をより高める必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教えて考えさせる授業」研究事業を推進し、成果を全教職員で共有する。 教育課程特別委員会で教育課程上の課題について検討し、早期に取り纏める。 少人数教室の充実や教室へのプロジェクト設置等を推進する。 	学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> 進学重視型単位制の導入により、生徒の学習意欲向上にどの程度つながっているかを把握する必要があるのではないか。 保護者の立場から、近隣高校でも行われている土曜日の授業・補習等について生徒がどのように考えているかを知りたい。 「教えて考えさせる授業」の研究成果の共有を進めてもらいたい。
		進路希望実現に向けた計画的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報の的確な伝達 ガイダンスへの積極的な参加の奨励 模試の有効活用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 進路支援ツールを有効活用し、情報を随時提示する。 進路希望に対応したガイダンスを計画・実施する。 模試の解説補習への参加者が増加する。 	<p>進路希望実現に向けた計画的な取組について、ほぼ達成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者・生徒向けの進路説明会を実施した。 進路支援ツールを適切に利用した。 大学模擬授業（1年）を12系統のべ24講座、大学説明会（2年）を13大学のべ25講座実施した。 模擬試験等を各学年・年次で計画的に実施した（3年22回、2年6回、1年生4回）。2年・3年で模試等解説補習を実施した（3年6回、2年2回）。 	A	<p>1年次において、進路に関しての知識不足から不安を感じる傾向にある。また、国公立大学希望をあきらめさせない工夫が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 早い段階から進路に向けたガイダンスや個人面談を実施する等、進路指導計画の更なる工夫・改善を進める。そして、生徒自身が自ら進路を設計する力を育成する。 		
2	昨年度の生徒アンケートによれば「国際交流、社会探検工房などの体験活動が充実している」と答えた生徒の割合は85.6%、「文化祭・体育祭・球技大会などの学校行事が充実している」と答えた生徒の割合は88.6%、「部活動が盛んである」と答えた生徒の割合は92.0%である。「3つの感動体験」を始めとする様々な教育活動は、生徒が貴重な体験をする機会となっている。今後も本校の教育活動の柱となるよう、継続的な推進が必要である。	体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 社会探検工房、SPP、海外研修旅行、海外短期派遣（ニューゼラント）等の事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の目的が達成され、その成果を生徒・教職員が活用する。 	<p>体験活動の充実について、ほぼ達成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会探検工房（12名参加）、SPP（海の生物学、14名参加）、海外修学旅行（オーストラリア、2年）、海外短期派遣（姉妹校エレスメアカレッジ、5名参加）、姉妹校生徒短期受入（12名）。各事業とも、目的を達成した。 	A	<p>86.1%の生徒が、体験活動が充実していると感じている。今後も継続するよう、各事業を工夫していく。可能な事業については、参加者の増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各事業の内容の充実、組織等を検討する。 宣伝を効果的に行う。 成果の共有方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 多彩な体験活動が実施されており、学校としてよく取り組まれていると感じる。 社会探検工房は、内容も魅力的であり、より多くの生徒に体験させたい。部活動等との調整ができるとよい。 	
		学校行事及び課外活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の円滑な運営 部活動への積極的な参加の働きかけ及び指導体制、活動環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動が活性化し、学校行事の充実を感じる生徒の割合が増加する。 部活動加入の比率が増加する。 	<p>学校行事及び課外活動の充実について、ほぼ達成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各行事について生徒が自発的・積極的に取り組み、生徒会活動も活性化した。「学校行事が充実している」と答えた生徒は85%を超えた。 部活動加入率は約90%である（6月現在）。複数の部活動が関東大会や全国大会に出場した。 	A	<p>学校行事の充実を感じる生徒が多い一方、その時期・内容について要望を持つ生徒も存在する。生徒の意見をより反映させた学校行事の運営を行う。また、「部活動が盛ん」と答えた生徒の割合は約93%である。今後も継続するよう、指導体制・活動環境の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動をより充実させる。 		
3	「辻小虹色チャレンジスクール」「夏休みおもしろサマースクール」「ジュニアインタープリター」「星空観察会」「卓球教室」等、近隣の小中学校や自治会との連携を積極的に行っている。本校教育活動への理解をより深めていただくため、地域に開かれた信頼される学校づくりを、更に推進していくことが求められる。	開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 近隣小中学校、辻地区、さいたま市及び南区との連携推進 広報活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 各連携事業等を活性化させるとともにその成果を全職員で共有し、連携意識が高まる。 HPを積極的に活用し、きめ細やかな情報発信を行う。 	<p>開かれた学校づくりの推進について、ほぼ達成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣小中学校との連携事業（虹色チャレンジスクール8回、星空観察会2回、土曜チャレンジスクール、夏休みおもしろサマースクール、科学未来探検隊、サッカー交流2回、卓球教室）を実施した。各事業とも、目的を達成した。 	A	<p>地域との連携事業が今後も継続するよう、成果の共有をより一層行う必要がある。また、HPを活用した、きめ細やかな情報発信を更に推進する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果の共有方法を検討する。 HPの運用方法を工夫する。 中学校等への広報活動を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣小・中学校との連携について多様な活動が行われている。小・中学生にも良い影響を与えており、感謝している。 気持ちの良い挨拶のできる南高生の存在は、大変素晴らしいと感じる。 	
		安全・安心な学校環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の交通マナーアップ指導の推進 規範意識を向上させる生徒指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導を計画的に実施し、生徒の交通安全並びに交通マナーへの意識が高まる。 教職員の共通認識のもとに、指導体制を作り、生徒の規範意識が向上する。 	<p>安全・安心な学校環境の確保について、ほぼ達成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部を中心に全教職員の協力により、計画に基づいた登校指導や集会時の服装指導等に年間を通して取り組んだ。生徒の交通安全・交通マナーへの意識、規範意識を向上させることができた。 	A	<p>登下校時のマナー、服装等改善の傾向が顕著であるが、一方で校則に妥当性を感じない生徒も存在する。生徒自身が自ら規範を守る意識を育成する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の共通認識を確認し、全員で規範意識を向上させる生徒指導を推進する。 日々の指導に、地道に継続的に取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒へのアンケート結果を見ると男女間で校則に関する意識の違いが見られるので、その部分を検討していくとよいのではないか。 生徒が参加する登校（挨拶）指導は、地域にとっても有益である。

